

新しい「寺」

R09035 佐藤康平
指導教員 澤田英行

1. はじめに - 人と建築と街 -

人と人が出会い家が建てられ、更に人が集まり街ができた。人の営みに寄り添うように生まれた建築、街。そのあり方が変わってきているように感じる。

人から生まれた建築や街が、知らない間に複雑化し、人の居場所は消えていき、人の振る舞いさえも形式化している。

人と建築と街の関係が反転した現在において必要なものは何かを考えた。

2. 研究背景 - 街と寺 -

街に必ずある建築のひとつが寺であった。寺は街の中心にあり宗教施設でありながら、教育や育児など日常的な人々の活動に始まり、冠婚葬祭にも利用されるなどその使われ方は人の生活に直結していた。



しかしながら、技術の発達と共に人の要望が多様化し、それにできるように街に様々な機能が生まれる中で、寺が担っていた宗教以外の機能は次第に消えていった。

3. 問題提起 - コミュニティの希薄と寺の消失 -

現在、建築や街が、人の把握できないほどに複雑化・巨大化している。人の行為は機能として形式化・細分化され、街を覆いつくすような箱型の建築の中に綺麗に収められていったため、別の目的を持った人同士が交流したり、同じ空間で佇んだりすることはなくなった。



寺に対しても変化が求められ、ビル化して箱の中に収まるものや、観光地として利用されるものもあるが、ほとんどの寺は、その立ち位置が曖昧なまま街の余白として取り残されている。



4. 敷地選定 / 敷地情報 - 街の現在と歴史 -

□対象地区：東京都北区赤羽西1丁目21-17

□対象敷地：静勝寺（稲付城跡地）

□用途地域：第一種中高層住居専用地域

□敷地面積：10,000 m²

□容積率：300%

□建ぺい率：60%



■ 4-1. 「現在の赤羽駅北口」

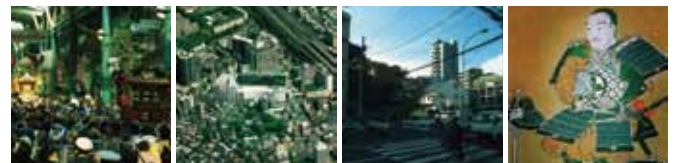
赤羽駅北口地区は戦前からの街並みが残る木造密集市街地であった。現在、駅前を中心に再開発が進められ、巨大な商業施設とマンションが建ち並び始めている。綺麗な箱型のマンションには新しい人が住み始め、綺麗な箱型に収められた商業施設に街の人が集まる。

街は一見賑わっているように見えるが、人と人が交わることはなく、それぞれの活動は形式化されている。



■ 4-2. 「静勝寺と赤羽の歴史」

そうしたふたつの生活の間にある静勝寺は稲付城という城の跡地にある。この城を江戸北方の砦として建てた太田道灌という武将は、街を守るだけでなく詩歌管弦の文化を広めるなど、人との交流を大切にしていた、現在も『大赤羽祭』という祭り文化として赤羽の街に受け継がれている。



静勝寺は、赤羽の街を守り、そうした人と人との交流を築いた道灌の功績を讃えるための寺として、この地に建てられたという歴史的な“意味”がありながらも、現在の街や文化とはほとんど関わりをもたずに存在している。



5. 提案 - 新しい「寺」を提案する -

街の現状と場所の持つ歴史的な“意味”をもとに現代における「寺」を提案する。今までの寺のように“宗教”によって中心をつくるのではなく、様々な人の活動を許容する“空間”によって街の生活の中心をつくることを考えた。

活動が形式化され、人と交流をしたりそっと佇む空間が無くなってしまった街に人々の居場所をつくる。

そうすることで、現在の人と街とを近づけると共に、この城跡がもつ歴史的な“意味”を寺の“形”ではなく“現象”として残すことを考えた。

6. 設計手法

■6-1. 街にあるもの、街にないもの



- 街にあるもの**
- ・生活するたくさんの人
 - ・起伏に富んだ地形
 - ・かつての砦としての城跡と木々
- 街にないもの**
- ・人が佇む居場所
 - ・人が集まれる場所、きっかけ
 - ・活動の中心となる空間

■6-2. 街の交差点



城跡で唯一開かれた参道を街の人は近道として利用している



全体を開くことで街の動線の交差点が生まれる

■6-3. 城跡の形状を延長する

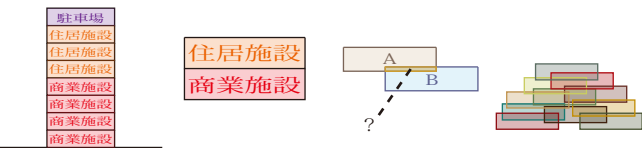


起伏に富んだ街の中で城跡が隠れている



城跡を延長するように建築を建て、場所を顕在化させる

■6-4. 何をしててもしてなくてもいい空間



赤羽に乱立する巨大複合施設。植栽するフロアに機能が当てはめられている。

人の行為は形式化され、行みなど形式化できないものは排除され、各階で完結している。

同じような形状を用いながらもそれが重なることで機能が曖昧な居場所が生まれる。

その連続で空間を構成することで、人の形式化できない行為を許容する“何をしててもしてなくてもいい空間”が生まれる。

■6-5. ファサードの消失と象徴の現出

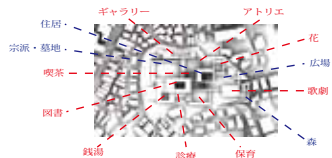


城跡は森に覆われていて閉じている

巨石のような象徴性をもつ

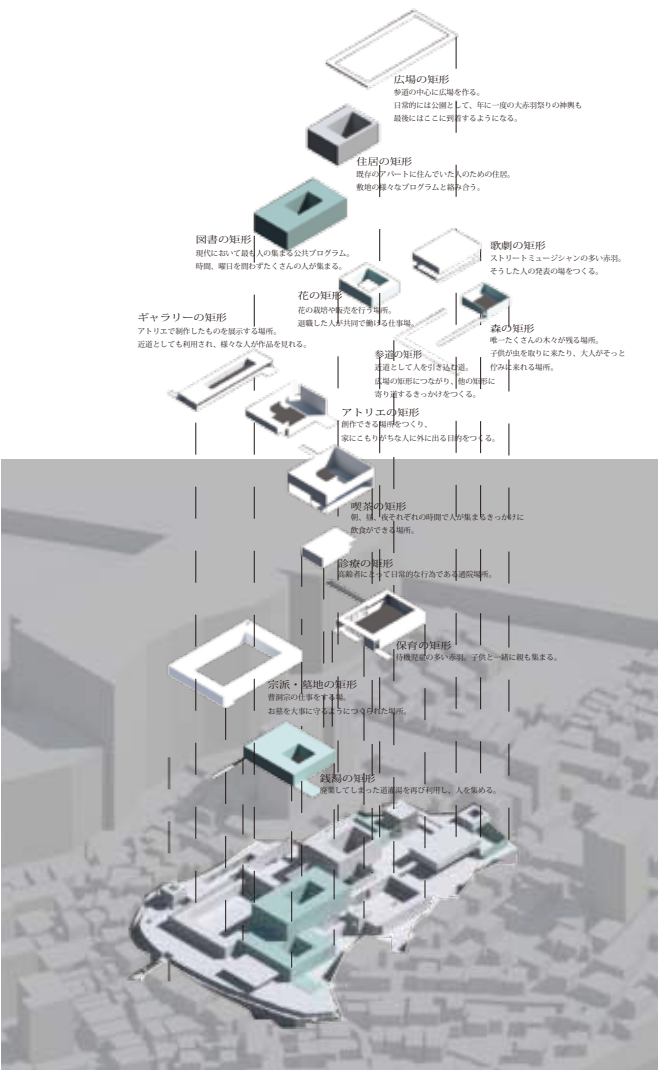
ファサードを消失させることでその象徴性を寺として現出させる

■6-6. きっかけとなるプログラムを挿入する



もともとあったプログラム（寺・住居）に加えて、人が集まるきっかけとなるプログラムを挿入する。様々なきっかけをもとに集まった人がそっと佇んだり不意に交わったりする。太田道灌の意志を継承した新しい「寺」が現象として現れる。

7. 構成ダイアグラム



8. 風景



遠景、巨大な塊と樹木が場の象徴を顕在化している。



中景、浮遊する建築と城壁に階段があるのが見える。



近景、様々な行為が交錯する空間が広がっている。

9. 参考文献

1) 建築のちから 内藤誠著 王国社 2009年
2) メイド イン トーキョー 塚本由晴他著 鹿島出版会 2001年
3) スタジオ・ムンバイ：プラタシス ビジョイ・ジェイン他監修 TOTO 出版 2012年
4) 素材と造形の歴史 山本浩治著 鹿島研究所出版会 1966年
5) 新宗教の建築・都市、その戦略論序説 五十嵐太郎著 <http://db.10plus.jp/backnumber/article/articleId/258/>
6) コミュニケーションのアーキテクチャを設計する 藤村龍至他著 彰国社 2012年